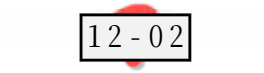
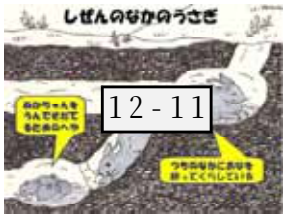
第４回研究大会

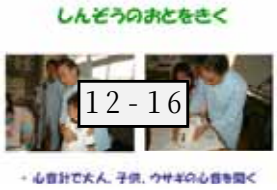
パネル発表「生活科ふれあい授業の実際・ウサギ編」

宮川　保

新潟県獣医師会では平成６年より行政と連携し学校飼育動物支援事業を行い成果を挙げています．その一環として，希望する小学校に対し獣医師を派遣して生活科ふれあい授業を実施しています．小学校から子どもたちに動物についてのお話をして欲しいという依頼は以前よりありましたが，何を話したらよいのか分からないまま断ってしまう獣医師もあり，獣医師用のふれあい授業の資料の製作が望まれていました．県獣医師会では，会員が小学校でのふれあい授業を実施する際の参考になるように，「CD 版生活科ふれあい授業の実際」を希望者に配布し，動物介在教育と動物愛護教育の推進に努めてきました．今回新潟大学附属新潟小学校で実施している生活科ふれあい授業を例に，使用しているスライドを紹介します．小学校 2 年生，２クラスが対象で獣医師２名，動物看護師２名で行います．使用機材は実験用心音計，二股聴診器，パソコン，プロジェクター，スクリーン，学校飼育動物紙芝居，机等です．内容は，講師紹介，獣医師の話，紙芝居，心音を聴く，質問，お約束と下記のスライドに沿って進められます．







質問は，その場では答え切れませんので，後日授業の感想と一緒にいただき，資料を作ってお答えするようにしています．子どもたちからの感想は，「ウサギのことがよく分かった」「もっとおせわをしてあげたくなった」「１ばんべんきょうになったのは，どうぶつは人げんとおなじようにひとりだとさみしいということです．わたしはともだちやかぞくだけじゃなくてどうぶつにもやさしくしようとおもいました．」などがよせられました．生命尊重の心を育む動物とのふれあい授業のポイントは動物の体の温かさやウサギの心音に感動し「命」を体験することだけに留まらず，友達の大切さや家族の愛情に気付かせるように発展させることも大事だと思われます．

（新潟県獣医師会学校飼育動物委員長）